

「心のノート」を使った道徳の授業

11月1日(金)に行った道徳の授業についてお知らせします。子供たちが使っている「心のノート」を使用した授業です。お家の方にも感想を尋ねたり、「できれば、気付きを書いてもらって来てね」と子供たちに促したからです。授業の様子を伝えておかなければ、おうちで困ってしまわれそうですよね。

このたびの道徳の授業では、「心のノート」の活用がメインではありません。通常の読み物資料を使った授業の中で補助的に「心のノート」を使用しました。読み物資料は「ぼくたちは小さななかにはかせ」。授業のねらいは、「自分がきめためあてに向かって、あきらめずに努力する」というもので、一般に「根気 努力」と呼ばれる内容項目です。道徳的な価値としてはとても大切なものです。

読み物のあらすじは、以下です。

仲良し3人組が学校の中庭で体長1センチメートルくらいの小さな「かに」を見付けます。海や川に近くないところにかにがいることに驚いた3人は、先生のすすめもあって、名前などを調べて学級新聞にのせるというめあてを持ちました。しかし、学校にある図鑑などでは明らかになりません。簡単には調べられないのであきらめかけていたところ、3人の一人が町の図書館まで足を運んで調べることを提案します。町の図書館まで行くのは大変だったのだけど、実際に行ってみると何とか「名前や食べ物など」がわかりました。さらにその図鑑の作者にそのことを手紙に書くと、もっといろいろなかにを調べてもらんと提案され、ますます積極的になってかに調べをつづけることになりました。

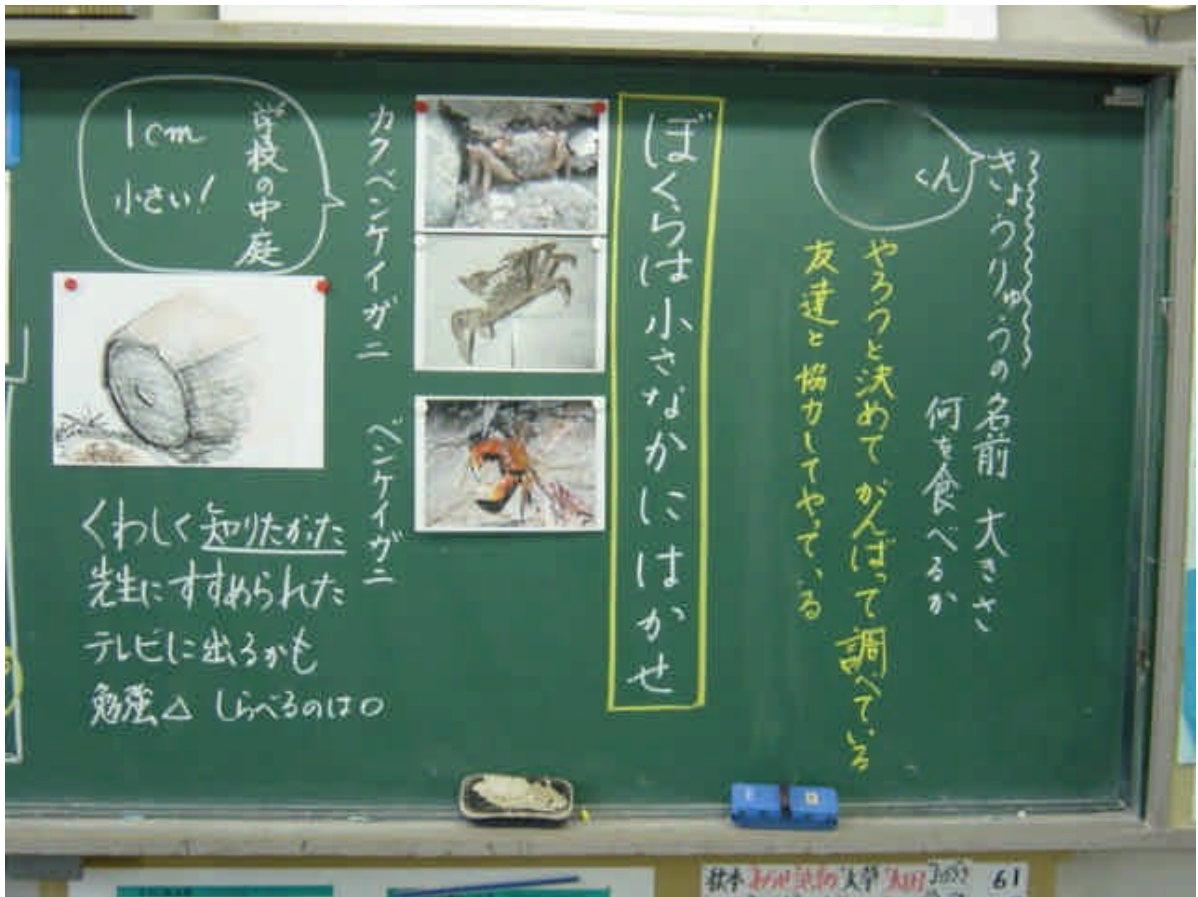
導入で、君、君、君のことを紹介しました。3人は、今恐竜の名前や大きさを調べることに夢中なのです。このお話の3人組とよく似ています。そして、だれにも自分がきめためあて、やりたいことに向かって一生懸命になっていることがあることに気付かせました。

次に読み物資料を読んで、「どうして、この3人はあきらめないで最後まで調べることができたのか」について話し合いました。そして、自分が決めたことだからあきらめたくない やっている中身が好きなので、自然とやりたくなる 仲間と一緒にだから、励まし合ったり、楽しかったりしてあきらめなくてすんだ の3点を見つけ出しました。言うだけなら簡単なので…

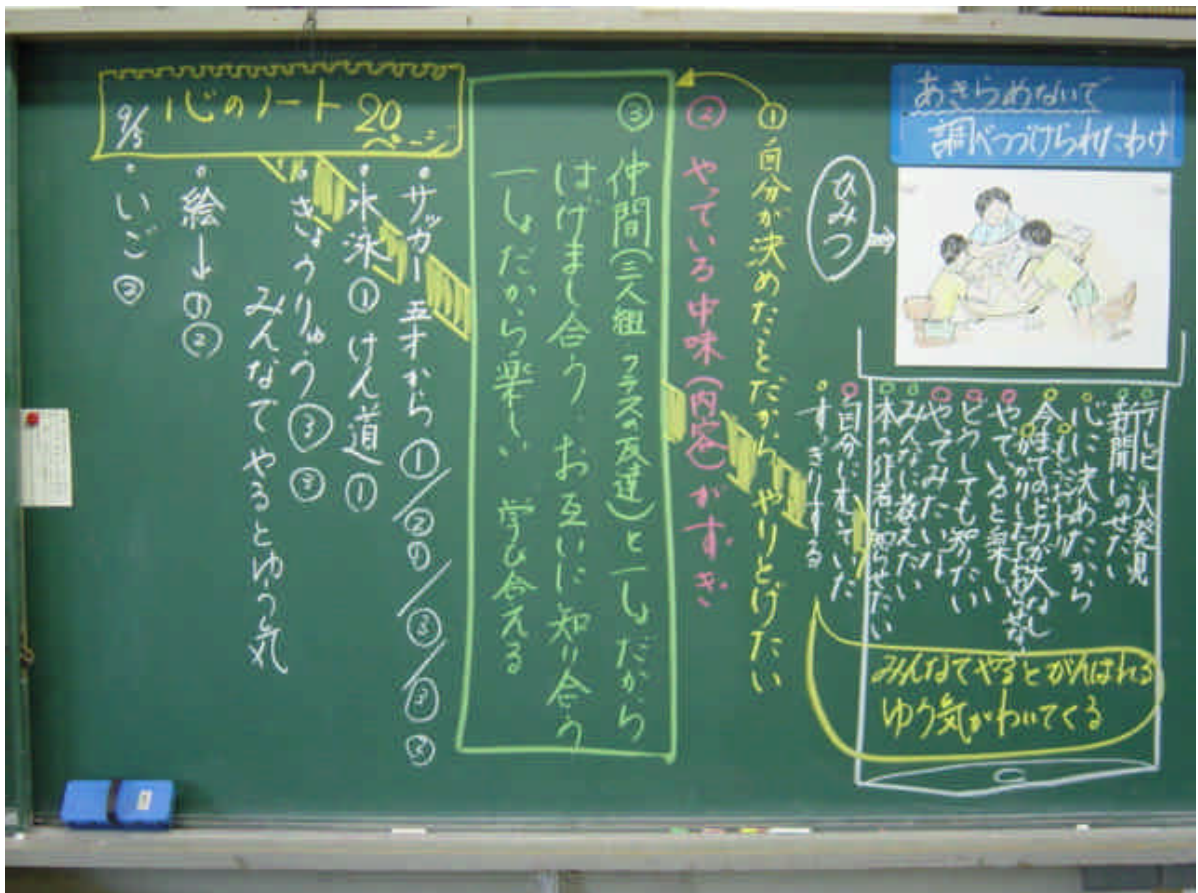
この活動の時に、一人一人が「心のノート20ページ」を出して、2学期9月5日に書いた「あきらめないでがんばりたいこと」を読んで、主人公の心情を想像させました。自分のめあてに向かう気持ちを参照させて、主人公の気持ちを想像させたのです。単に気持ちを考えるだけなら、ずっと言葉になるのですが、実際に自分があきらめかけている「めあて」や、実際にあきらめてしまっていることと照らし合わせて主人公の心情を想像させると主人公のやっていることの「よさ」が際立ちます。逆に自分があきらめてしまっている、最近やっていないことに対する自分の不十分さが納得できたりします。その意味で「以前書いて継続している自分の取り組み」を「心のノート」の記述を根拠にしながらかし合くと効果的でした。

最後に今自分ががんばっていることを「心のノート」から見付けて、班やクラス全員に紹介する活動をしました。3人組が互いに励まし合いながら「めあて」を達成したからです。お話は同じめあてに向かっている3人ですが、互いに別々のめあてであっても、それを知り合っていることは、励まし合うということがなかったとしても、何となくがんばる気持ちが湧いてくるものです。

根気や努力は自分自身にかかわることですが、仲間や家族がそれを知っているだけで取り組みは確かになります。仲間や家族とつながっている感覚が、自分の意志を強くするという感じでしょか。そこで、お願いします。おそらくこの連休中に、子供さんが、自分の「心のノート20ページ」に書いている自分のめあてについて話をしたはずですが、それを聞いてあげて、できれば、がんばりの状況(できていること、まだもう少しのこと)について話をしてほしいです。できれば、一言書いていただけるとがんばる気持ちも大きくなると思います。よろしくお願いします。



黑板右半分



黑板左半分